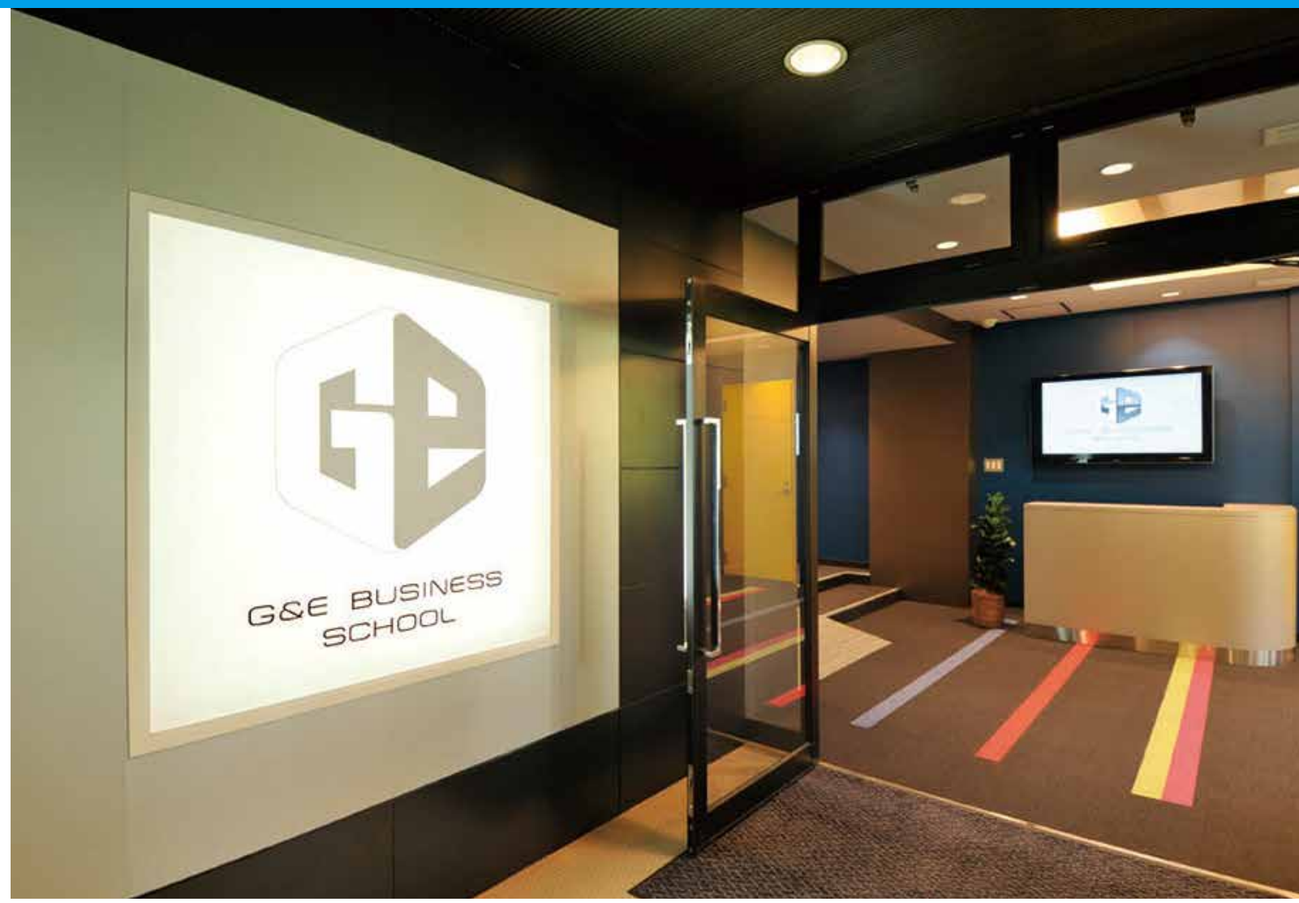


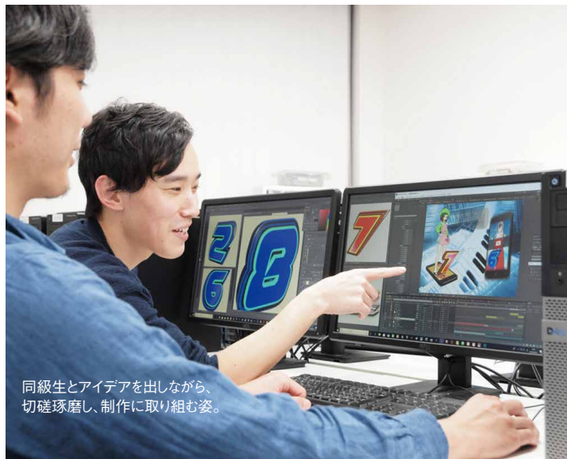
パチンコ業界唯一の人材育成機関 若年層の想いに応える学費改定

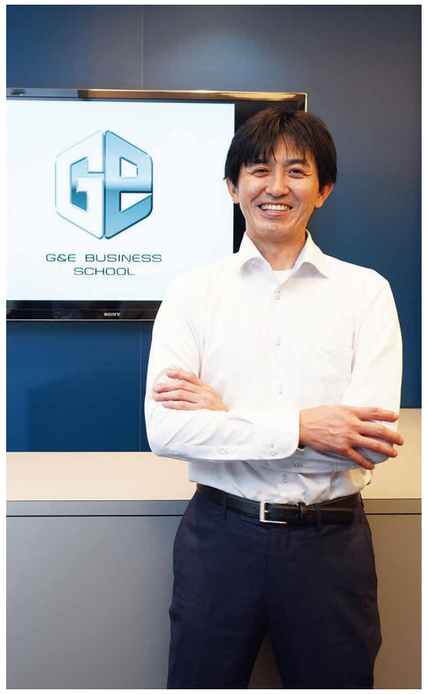
業界大手6社が出資し、実践的なカリキュラムを実施することで、時代を担う人材を育成するゲーミング&エンタテインメントビジネススクール（以下G&Eビジネススクール）。来年度から入学生の学費を改定し、業界で働きたい若者の間口を広げた。

業界唯一の産学協同の教育機関として開校しているG&Eビジネススクール。パチンコ業界の「SANKYO」、「フィールズ」、「京楽産業.」、「大一商会」、「ニューギン」、「藤商事」の大手6社が共同出資。開校から13年間、現在までに280社以上、計1500名を超える人材を業界に輩出した実績を持ち、2018年度の内定率はなんと94・6%。そんな同校が、次の2020年度入学生の学費改定に踏み切った。

今回の改定により、受講料は19万8000円からとなり、入学への間口が大きく広がる形となった。「どんなにやる気があっても親の協力を得られず、自力ではどうしても学費を払えない若年層は多いと思います。今回の改定では、アルバイトを少し頑張れば支払える額に設定しました。ここ数年、学費がハードルになり、入学を断念する方が増えていましたので、業界の未来を担う若年層の想いに応えたいと改定に踏み切りました」と同校の高原裕希彦校長。「パチンコ業界で働きたいと思っている若年層が一歩を踏み出すきっかけになってくれたらと考えています」と改定の意図について付け加えた。

業界で働く卒業生に今回の改定について話を聞いてみると、「私は入学前は他業種の仕事をしていたのですが、経済的に厳しく学費を貯めることから始めたのを覚えています。今回の改定により私のように先延ばしになっていた方のハードルが低くなったのは、同志が増えるという意味でもうれしいですね」と語った。


同級生とアイデアを出しながら、切磋琢磨し、制作に取り組む姿。



G&Eビジネススクール高原裕希彦校長。

即戦力を目指す教育 豊富なカリキュラムが土台に

先に触れた高い内定率。その理由は、パチンコ業界で働きたいという志を高くもった受講生が集まっていること、実践的なカリキュラムにより土台作りがしっかりとなされている点にある。

コースは、PS総合開発コース、PSプランニングコース、PS映像プランニングコース、PS営業育成コース、PSホールコース（渋谷校のみ）、PSメディア・ライターコース、総合エンタテインメントコースの全7種。働きたい分野に合わせたコースが用意されている。

授業内容は、コースによって様々だが、遊技機や風営法の知識などの基本はもちろん、各分野の基礎から応用まで幅広い講義が行われている。

週1~2日の通学制（総合エンタテインメントコースは週3日制）で、学生達は仕事やアルバイト、大学との両立をしながら通学する人も少なくない。

「授業日以外でも自習をしにくる学生も大勢います。ですが、生活のために働かなければいけない学生ももちろんいます。そういった方には、実際の現場でのアルバイトを斡旋することもあります。学校にきて勉強するだけではなく、働きながら両立することで、社会に出た時のギャップは少なくなるため、むしろ働くことを推奨しています」と高原校長。

「学んで就職するだけではなく、やりたいことへの熱い気持ちを、さらに学校で育んでもらい、志の高い人材を送りだしています。5年後、10年後にこの業界で活躍できる人材の育成に邁進していきます」と自信を覗かせた。

ホールの人材育成にも貢献

G&Eから未来の幹部候補生を輩出 企業研修で幹部社員のスキルアップも

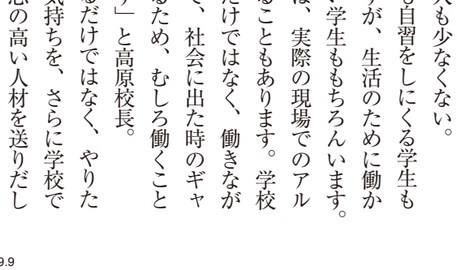
PSホールコースは、経営の仕組みや実線的な店舗運営手法を学び、パチンコホールの幹部候補生を育成するコース。卒業生は就職先の企業で高い評価を受けている。

授業では、直接ホールに行き現場を視察。来店から賞品交換までの動線で従業員が客とどう接していくかなど、実務の視点でホールを分析していく。「直に見て、肌で感じることで、今まで見えなかったものが見えるようになってきます。私たちはまず、生徒たちに〝気づき〟を与える事が大事だと考えています」と高原校長は話す。

またG&Eビジネススクールでは、メーカーや販社の新入社員研修を幅広く請け負う他、ホール企業向けの幹部研修等も多数行っているという。

ホール企業向けの幹部研修では、計数に通じた社員を数多く育成し、自らシミュレーションを組みスペックを詳細に理解することで、遊技機のポテンシャルを最大限に引き出す運用法を構築することができる。

業界企業の幹部から業界未経験者まで、人材を育成するためのノウハウが、G&Eビジネススクールには蓄積されている。


渋谷校で行われている授業風景。真剣な面持ちで講師の言葉に耳を傾けている。